VOL.6　2026/10/30

佐賀県の視覚障害教育を結ぶ

ゆうあいnet

朝夕は涼しくなり、秋らしさを感じるようになってきました。今年度も半分が過ぎ、児童・生徒の成長を感じたり、見え方への理解を深めたりと充実した日々をお過ごしのことと思います。今号では教材教具と、視覚補助具について紹介します。

教材教具

拡大教科書

拡大教科書は、弱視の児童生徒が文字や図、写真などを見やすくするために、通常の教科書を拡大して作られた教科書です。文字の大きさや行間、図表の配置などが工夫されており、一人ひとりの見え方に応じた学習を支えます。

拡大教科書を活用することで、教科書の内容を読み取りやすくなり、自分で調べたり、問題を解いたりすることにつながります。また、必要に応じて拡大読書器やルーペ、タブレット端末などを組み合わせることも大切です。

一人ひとりの見え方や使いやすさを確認しながら、適切な教材や学習環境を整え、主体的に学習に取り組めるよう支援していきます。



← **拡大教科書**

<文部科学省　教科書発行者等による拡大教科書発行予定一覧>
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/kakudai/1256604.htm

デジタル教科書

デジタル教科書は、タブレット端末やパソコンなどの画面で見ることができる教科書です。文字や図を拡大したり、重要な語句に印を付けたり、対応する機能を使って文章を音声で読み上げたりすることができます。

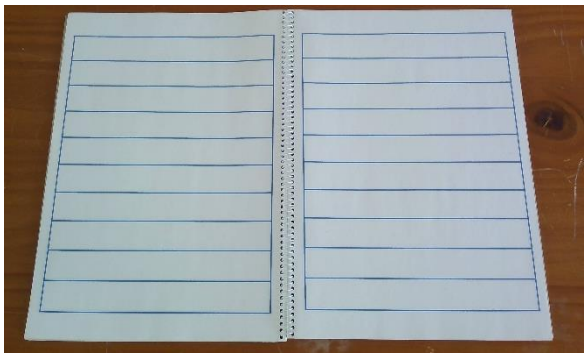
弱視の児童生徒にとって、自分に合った文字の大きさで学習できることは、教科書の内容を理解するための大切な支援となります。また、地図やグラフなどを拡大して確認することで、必要な情報を得やすくなります。

一方で、画面のまぶしさや目の疲れなどには配慮が必要です。一人ひとりの見え方や使いやすさに応じて、デジタル教科書と紙の教科書、拡大読書器などを組み合わせながら、安心して学習に取り組める環境を整えていくことが大切です。

＜参考資料・情報＞

●点字情報技術センター　https://www.lighthouse.or.jp/tecti/service/school/

弱視用ノート

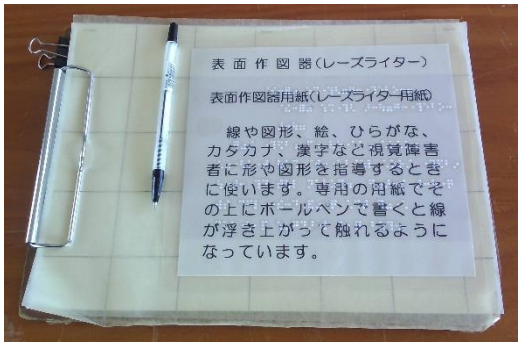


↑ **弱視用ノート**

弱視用ノートは、弱視の児童生徒が文字を書きやすく、見やすくするために工夫されたノートです。太く濃い罫線や大きなマス目、まぶしさを抑えた紙などが特徴です。

活用に当たっては、一人ひとりの見え方や書きやすさに応じて、罫線の幅や筆記用具、ノートの置き方などを工夫することが大切です。本人に合ったノートを活用し、見やすく書きやすい学習環境を整えていきましょう。

作図器



↑ **表面作図器（レーズライター）**

作図器は、定規やコンパスなどを使って、図形線を描くための用具です。弱視の児童生徒にとって、目盛りや線を見やすくする工夫は、正確に作図するための大切な支援となります。

表面作図器（レーズライター）は、A4 サイズ程度のバインダー型で表面にシリコンやゴムが貼られています。専用の透明または白色の作図用紙をセットし、インク無しのボールペンで書くと、筆跡が凸状に浮き上がる仕組みです。

視覚補助具

弱視レンズ

弱視レンズは、見えにくさのある児童生徒が、文字や図などを見やすくするために使用する視覚補助具です。拡大鏡（ルーペ）や単眼鏡などがあり、近くの文字や遠くの掲示物など、必要な情報を捉えるために活用します。

遠用弱視レンズの単眼鏡　→



近用弱視レンズは、読書やノート記入など近距離の作業に用いられ、眼鏡型、手持ち型（ルーペ）、卓上型などがあります。眼鏡型は長時間の読書に適しており、手持ち型は軽量で持ち運びに便利ですが、保持しながら使う必要があります。卓上型は本の上に置いて使用でき、安定性があります。



↑ 近用弱視レンズ　手持ち型（左）　卓上型（右）

これらのレンズは、網膜像を拡大することで視認性を高め、学習や生活の自立を支援します。使用者の視力や目的に応じて、適切な種類を選ぶことが重要です。

活用に当たっては、一人ひとりの見え方や使用目的に応じて、適切なレンズや倍率、使い方を確認することが大切です。本人が必要な場面で使いこなせるよう支援し、学習に必要な情報を得やすい環境を整えていきましょう。

<参考資料・情報>

●眼とメガネの情報室　https://mirulab.jp/column/cat03_eye_disease/1866/

●日本弱視斜視学会　https://www.jasa-web.jp/general/medical-list/amblyopia

拡大読書器

拡大読書器は、カメラで捉えた文字や図などを画面に大きく映し出す視覚補助具です。文字の大きさや色、コントラストなどを調整でき、弱視の児童生徒が教科書やプリントなどの情報を読み取りやすくします。主にカメラで対象物を撮影し、モニターに拡大表示することで、読書や筆記、作業を支援します。拡大率は数倍から 60 倍程度まで調整可能で、白黒反転やコントラスト強調などの機能も備えています。



↑ **モニター型の拡大読書器**

種類は大きく分けて「据置型」「携帯型」「音声読み上げ型」があり、据置型は大画面で本や新聞を読むのに適し、携帯型は外出先での使用に便利です。音声読み上げ型は、撮影した文字を音声に変換して読み上げる機能を持ち、近年では「視覚障害者用読書器」として自治体の給付制度の対象にもなっています。



↑ **タブレット型の拡大読書器**

活用に当たっては、一人ひとりの見え方や使いやすさに応じて、拡大倍率や表示方法を調整することが大切です。本人が必要な場面で使いこなせるよう支援し、自分で情報を得ながら学習に取り組める環境を整えていきましょう。

<参考資料・情報>

●社会福祉法人 日本ライトハウス情報文化センター

https://www.lighthouse.or.jp/iccb/shops/shops-503763/

佐賀県立盲学校　電話　（０９５２）２３-４６７２　FAX　（０９５２）２５-７０４４

代表メール　mougakkou@education.saga.jp

お気軽に御連絡ください。巡回相談の依頼も受け付けています。